

中国人観光客は 日本の国立公園のどんな魅力を重視しているか — オーバーツーリズム緩和に向けた分析 —

【発表のポイント】

- 日本の自然観光に関心のある中国在住者 750 名を対象に、環境評価手法を用いて国立公園の魅力に関する意識を調査し、重視される要素を定量的に分析しました。
- その結果、交通や宿泊の利便性よりも、自然、文化・歴史、地域ならではの食や体験といった魅力が重視されることが分かりました。
- 一方で、約 4 分の 1 の観光客は安全性を最優先しており、観光客の間に価値観の違いがあることが示されました。
- 本研究は、観光客の特性に応じた情報発信や資源活用を通じて、地方への観光分散と持続可能な国立公園管理に役立つ知見を提供します。

【概要】

近年、世界各地の自然観光地で、特定の地域に観光客が集中する「オーバーツーリズム」が課題です。日本の国立公園でも、外国人観光客の多くが一部の公園に集中し、地方の国立公園の魅力が十分に活かされていない現状があります。この課題解決には、観光客が何を重視して目的地を選んでいるのかを把握することが重要です。

東北大学大学院農学研究科の井元智子准教授らの研究グループは、日本の自然観光（ネイチャー・ツーリズム）に関心のある中国在住者 750 名を対象に、日本の国立公園の魅力に関する意識を調査しました。その結果、交通や宿泊の利便性よりも、自然や文化・歴史、地域ならではの食や体験を重視することが分かりました。一方で、安全性を最優先する観光客も一定数存在し、この違いは、年齢や性別、同行者の有無、求める体験内容、利用する観光情報源等の要因と関連していました。

本研究は、観光客の特性に応じた情報発信や資源活用により、観光分散と持続可能な国立公園管理への知見を提供します。

本成果は、2026 年 1 月 27 日に国際学術誌 Journal of Outdoor Recreation and Tourism にオンライン掲載されました。

【詳細な説明】

研究の背景

近年、世界各地の自然観光地では、特定の地域に観光客が集中する「オーバーツーリズム」が大きな課題となっています。オーバーツーリズムは、混雑や渋滞を引き起こすだけでなく、対象地域の自然環境の劣化を招き、持続可能な慣行が損なわれる恐れもあります。日本の国立公園も、インバウンド観光の重要な受け皿として期待される一方で、外国人観光客の訪問先は富士山などの一部の公園に偏っており、地方国立公園の魅力が十分に活かされていない現状があります。

こうした課題に対応するためには、交通や宿泊施設の整備だけでなく、観光客が訪問前の段階で「何を魅力と感じ、何を重視して目的地を選んでいるのか」を理解することが重要です。しかし、これまでの研究では、特定の公園や訪問後の満足度に焦点を当てたものが多く、訪問前の外国人観光客が国立公園のどの要素を重視しているのかを、体系的に明らかにした研究は限られていました。

今回の取り組み

本研究では、日本の国立公園全体を対象とし、日本の自然観光（ネイチャー・ツーリズム）に関心を持つ訪日前の中国在住者 750 名を対象にオンライン調査を実施しました。調査では、国立公園の魅力を構成すると考えられる 10 の要素について、どの要素がより重視されているのかを比較できる形で意識を把握しました。

分析の結果、外国人観光客全体としては、交通利便性や宿泊施設といったインフラ面よりも、自然資源、文化・歴史、地域ならではの食や体験といった、現地でしか得られない魅力が重視される傾向が明らかになりました（図 1）。

一方で、観光客の価値観は一律ではなく、安全性（災害時やトラブル時の対応）を最優先するグループと、自然や体験を重視するグループに分かれることが確認されました（図 2）。自然や体験を重視するグループには、男性や比較的年齢が高い世代、小学生以上の子どもを伴う家族旅行が多く含まれる傾向が見られました。一方、安全性を重視するグループには、女性や比較的若い世代、小さな子どもを伴う旅行、団体旅行や一人旅を想定する観光客が多いことが示されました。このように、国立公園に求める魅力の違いは、観光客の社会的属性や旅行スタイルと密接に関連していることが明らかになりました。

今後の展開

本研究の結果は、国立公園への観光誘導を一律に行うのではなく、観光客の特性に応じた戦略が必要であることを示しています。例えば、自然や体験を重視する観光客に対しては、地域固有の自然環境や文化、食の魅力を前面に出した情報発信が有効である一方、安全性を重視する観光客に対しては、災害時の

対応体制や多言語による案内など、安心して訪問できる環境を分かりやすく伝えることが重要です。

こうした取組を通じて、特定の国立公園への観光集中を緩和し、地方国立公園への分散誘導を進めることが期待されます。本研究は、観光政策や国立公園管理の現場において、科学的根拠に基づいた持続可能な観光マネジメントを検討するための基礎的な知見を提供するものです。

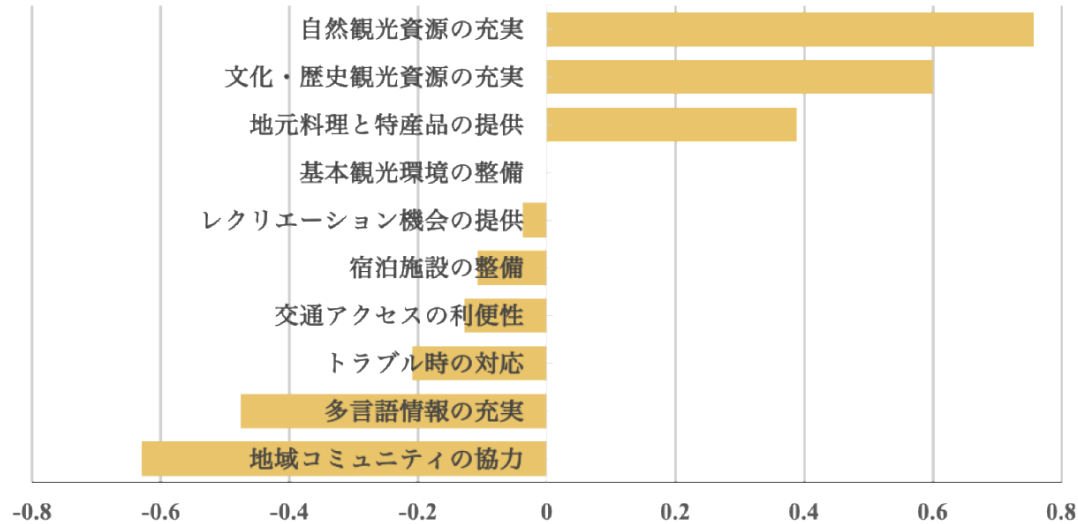


図 1. 条件付きロジットモデルによる係数推定結果

注：「基本観光環境の整備」をダミー変数の基準としている

セグメント 1	セグメント 2
トラブル時の対応	自然観光資源の充実
基本観光環境の整備	文化・歴史観光資源の充実
宿泊施設の整備	地元料理と特産品の提供
自然観光資源の充実	レクリエーション機会の提供
文化・歴史観光資源の充実	基本観光環境の整備
地元料理と特産品の提供	交通アクセスの利便性
多言語情報の充実	宿泊施設の整備
交通アクセスの利便性	トラブル時の対応
地域コミュニティの協力	地域コミュニティの協力
レクリエーション機会の提供	多言語情報の充実

図 2. 潜在クラスモデルによる係数推定結果

注：「基本観光環境の整備」をダミー変数の基準。黄色項目は係数が正の結果を意味する

【謝辞】

本研究は、科学技術振興機構（JST）次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）（課題番号：JPMJSP2114）の助成を受けて実施したものです。掲載論文は「東北大学 2025 年度オープンアクセス推進のための APC 支援事業」の支援を受け Open Access となっています。

【論文情報】

タイトル：Foreign tourists' preferences for destination attributes in Japan's national parks: A best-worst scaling analysis.

著者：殷子鈞、趙心童、井元智子*

*責任著者：東北大学大学院農学研究科 環境経済学分野 准教授 井元智子

掲載誌：Journal of Outdoor Recreation and Tourism

DOI：doi.org/10.1016/j.jort.2026.101014

URL：https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2213078026000022

【問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院農学研究科

環境経済学分野

准教授 井元智子

Email: t-imoto*tohoku.ac.jp

（*を@に変換してください）

（報道に関すること）

東北大学大学院農学研究科

広報室

Email: agr-koho*grp.tohoku.ac.jp

（*を@に変換してください）